

たつのパークホテル

7月9日(日)平成29年度諏訪二葉高等学校伊北支部定期総会に、小池良彦校長先生と副会長小林真里枝・同小林佐江で参加いたしました。

丘を上がった緑の美しい「たつのパークホテル」には、38名の伊北支部同窓生の方々が集まっていたらっしゃいました。

支部長挨拶

今年は、小野御柱が無事敢行され、蛸祭りも大変にぎわいました。

伊北支部では、5年に一度支部名簿を作成していますが、今回は、昨年作った名簿を本部にお願いして、都道府県別に出していただきました。番地ごとに並んでいて使いやすいです。

創立110周年では、実行委員会により進められているとの報告が、理事会でなされています。8月12日のロビーコンサートと10月14日の式典には、奮って参加してほしいです。

アトラクション

～諏訪アルプホルンクラブ～

スイスの山々に響き渡る民族楽器アルプホルンは、自然の中で育まれた木の楽器です。同クラブでは、ご自分たちで手作りをされているそうです。その音色は、優しく深く響き、丘の上の緑濃いホテルから、遠いアルプスに響き渡るようでした。珍しいカウベルの演奏や体験もあり、まるでのんびりと放牧されている牛たちの様にアルプホルンとカウベルが響き合いました。アルプホルンの体験には、会場のたくさんの方が参加し、その楽しさを楽しんでいらっしゃいました。

メンバーの方々と共にホテルの庭園で記念写真を撮り、昼食となりました。



同窓会挨拶

同窓会報「ふたば」の第4号、伊北支部記録に「先輩の方から、長い伝統的な二葉の校風に育てられた同窓生はどんな苦境にも順応して、苦境に立った時に切りぬける力を持っていると教わりました。」との記載がありました。

創立110周年、県立移管してから100年目、その際、奔走してくださった初代校長岩垂今朝吉先生との100回忌という節目の年に、この伝統をどうとらえていくのか、大きく揺れる社会情勢の中、多くの課題を抱える教育界を支える団体として、これから200年300年と続くためには、どう活動したらよいか。同窓会は、善意と熱意と誠意に奉仕活動である故、その考え方も様々に広がります。伊北の先輩の方の言葉にあるように、何とか乗り越え、120周年へとつなげていきたいということを願い、本部一同、日々活動を進めています。よろしく願いいたします。

学校長挨拶

今年の新入生は241名です。7月1日2日の二葉祭には、3000人を超える来校者でにぎわい、生徒たちと共にその成功を喜びました。

今求められる教育の力に「自立して社会を作っていく力」があります。二葉生は、中高生のリーダーとなり、被災学生を交えて『防災フォーラム』を開いたり、諏訪の空き店舗を利用してカフェを開いたりしたことが新聞記事にも掲載され、その力を発揮しています。

長野県全体としても、入学生の人数減や社会の変化を課題とし、『学びの改革実施方針(案)』作成を計画しています。広く県民から意見を伺うために県下12か所地域懇談会を開催しています。多数のご参加をお願いいたします。

参加した方々の今

季節の野菜をふんだんに使ったお料理を堪能した後、テーブルごとにお一人ずつお話を伺いました。驚きは、何と11回生から61回生まで広がる伊北の出席者です。「蓼科全校遠足」「校内温泉」「毎年となった二葉祭」等の思い出では、全くご存知ない年代の方が珍しそうに聞いていらっしゃいました。

また、プライベートでは今まさに子育て中の方、介護真最中の方、それらを乗り越え、ご自分の楽しみや生きがいを見つけていらっしゃる方、実に人の一生を凝縮したようなお話の数々に、時間のたつのを忘れしました。その中で、同窓生〇〇回生の会、理事会メンバーの会、地域ボランティアの会等、様々なコミュニティの中で、皆様が『人と人のつながり』を大切にいらっしゃることを知り、伊北支部の団結の心情をみた思いでした。

最後に『白き翼』を知らない同窓生も替え歌まで口のできる同窓生も共に声を合わせ、辰野を後にいたしました。